学校名　　宜野湾市立大謝名小学校
校長名　　玉　寄　　誠

令和７年度英語教育指導法改善研究計画書

１　研究主題名：英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～言語活動の工夫を通して～

２　研究主題設定の理由

近年，グローバル化社会が急速に進展する中で，外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められている。学校で行われる外国語活動においても，従来の「慣れ親しむ」から，ある程度の「習得・活用の力」を育成する必要があり，カリキュラムの再編成と指導の準備を行わなければならない。

本校では，これまでも歌やゲーム,簡単な会話練習,ICT や図書などを取り入れ，幼稚園を含む全学年の児童が楽しく活動できる工夫に努めてきた。その結果，児童の多くが「英語の授業が楽しい」と答えており，意欲的に授業に取り組む様子が見られた。しかし，学習指導要領の改訂により，これまでの「説明・練習→コミュニケーション活動」という流れではなく，「コミュニケーション活動の中で，自力で既習事項を思い出して使いながら，自然に習得していく」ための授業づくりへと変えていく必要がある。「楽しい」だけではなく，目的や場面，状況に応じて，伝えたい内容に即した伝えるための英語表現の習得を図る工夫が課題となっているのである。

そこで，低学年からの既習事項を漆塗りのように何度も修正を重ねながら，相手や目的に合わせて言語材料が使えるように言語活動の工夫を通して，相手に配慮しながら工夫して伝え合い，外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや意義を感じることのできる児童の育成を図りたいと考え，上記の主題を設定した。

ゲームや歌，単語練習で終わるのではなく，歌詞の一部を自分に関することに置き換えて表現したり，相手の反応を見て，ジェスチャーなどを使い工夫したりしながら互いの気持ちや考えを伝え合う言語活動や，目的や場面，状況を明確に設定するなどの言語活動を通して，相手を理解し，リアクションをするなど，互いに認め合うコミュニケーションの資質・能力を高め，主体的・対話的な深い学びを目指していきたい。さらに今年度は、「読む・書く」の基礎の力・自ら読んだり書こうとしたりする態度の育成のために，「読むこと」「書くこと」にも意識して指導していきたいと考える。

３　学年・領域

低学年	中学年	高学年
（触れる・慣れる） ○英語の聞き取りに重点を置いた授業展開をする。	「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」 ○音声面を中心としてコミュニケーションを図る素地となる資質能力を育成する。	「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」 ○コミュニケーションを図る基礎となる資質能力を育成する。
	＜Let's Try＞ ○アルファベットの大・小文字に慣れ親しむ ○アルファベット文字の認識 ○アルファベットの音に慣れ親しむ	「読むこと」「書くこと」 ○活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる ○大文字、小文字を活字体で書くことができる ○慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり,例文を参考に書いたりする。

4　研究主任と組織

英語主任　ALT

知育部会（英語部会）

1学年　2学年　3学年　4学年　5学年　6学年　特別支援

5　年間研究計画

学期	活　動　計　画
1 学 期	・年間活動計画と具体的取り組みについての確認 ・活動内容についての共通確認 ・掲示物等環境整備 ・小学校外国語ステップアップ研修会への参加 ・夏季研修内容の検討 ・夏季研修　・1学期の反省
2 学 期	・2学期の活動計画の確認（1学期の反省をふまえて） ・英会話テストの実施 ・児童英検（5・6学年） ・2学期の反省
3 学 期	・3学期の活動計画の確認（2学期の反省をふまえて） ・実践報告書まとめ ・本年度の反省と次年度に向けた確認・改善

6　校長所見

本市の目標である「学び合い，未来を切り拓く人材の育成」を目指し，小学校低学年の段階から英語及び異文化への興味関心・理解を深め，英語教育の入門期として「慣れ・親しむ」ことを基調に，中学年では英語による会話を中心としたコミュニケーションを図る素地を，高学年では会話や読み書きを含めたコミュニケーションを図る基礎を育成することが必要である。

そこで本校においては、これまでの研究の成果を継続し，英語に親しみ世界で活躍できる大謝名っ子の育成を目指して取り組んでいく。そのために低学年からの既習事項を漆塗りのように何度も修正を重ねながら，相手や目的に合わせて言語材料を使えるように学習できるよう，言語活動の工夫を通して英語活動を実践していく。